

**ビデオ視聴による
政治的態度の変容：
『911ボーイングを捜せ』
視聴前から視聴後への
「陰謀説」支持の増加は
なぜおこったか？**

○伊藤武彦(和光大学)
take@wako.ac.jp

川島 充(和光大学)

静岡大学 2009年9月21日(月・祝)

日本教育心理学会第51回総会

PE042

在籍責任時間 17:00~18:00

問題1

2001年に発生した9.11同時多発テロ事件が世界に与えた衝撃は大きい。いわゆる9.11テロに関する米国の公式見解では、ビン・ラディンらアルカイダが引き起こしたテロであり、その方法は米国政府を始め、誰もが予想もつかなかったこととしている。

この事件は、ブッシュ大統領の「テロとの戦い」政策に高い支持率を与え、アフガニスタン戦争とイラク戦争のきっかけとなった。結果として、米国軍需産業に莫大な利益をもたらした。

問題2

だが、9.11同時多発テロ事件の物的証拠は非公開である。たとえば、WTCの残骸は十分に検証されないまま外国の廃品回収業者5社に、あっという間に引き渡され片付けられた。

こうしたなかで9.11テロに関しては、公式見解の矛盾点を指摘した、さまざまな諸説が生み出されている。

● 木村朗 9.11事件の世界史的意味と軍産複合体の影：戦争プロパガンダと思考停止の克服 ⁴

● きくちゆみ たが9.11事件の真相空想を求め

問題3

アメリカでは根強い論調で、このような視点に立ったジャーナリストや研究者による様々な著作が発刊されている。

例としてグリフィン(きくちゆみ・戸田清訳)の『9.11事件は謀略か:21世紀の真珠湾攻撃とブッシュ政権』緑風出版 がある。

日本でも

成澤宗男『9.11の謎:世界はだまされた! ?』

()

DVD『9.11ボーイングを捜せ:航空機は証言す

目的

ビデオ『911ボーイングを捜せ』を視聴することにより、9.11同時多発テロ事件における陰謀説をめぐる意見が変化するかどうかを調査することが本研究の目的である。



方法

被験者: 大学生78人(男子47名、女性31名)であり、有効回答者数は55人であった。有効回答率は70.5%である。

調査実施: 2008年11月

方法: 被験者には実験の意図を示さずに、約50分のビデオ資料「911ボーイングを捜せ」を見せた。質問紙は事前(見せる前)と事後(見せた後)があり、それぞれ2つの質問について記入してもらった。さらに事後については、3つ目の質問としてビデオについての感想を記入してもらい意見を比較した。⁷

本調査で用いた質問項目

- 問1 2001年9月11日に米国で起こった航空機による「同時多発テロ事件」の犯人は誰だと思えますか？
- 問2 犯人の目的は何だったのかと思えますか？
- 問3 ビデオ『911ボーイングを捜せ』の感想を書いてください。

結果① 回答についてのコード化

以上の手続きから得られた被験者の問1と問2の回答について、コード化を行なった。

それぞれのコードについては、アメリカ政府見解寄りの回答を「1」とし、両方に疑い持つ、あるいはそのどちらでもない回答を「3」とし、陰謀説寄りの回答を「2」とした。

結果② 事前事後の意見の変容

Table 1は、コード化に基づいてビデオ視聴による事前事後の意見の比較を示している。

「ビデオ視聴前と視聴後には変化がない」という帰無仮説を仮定して符号検定を行ったところ、負の差0人、正の差34人、同順位21名で、 $z = -5.659$, $p < .001$ となり、帰無仮説は棄却された。

Table 1

犯人についての米国政府寄り意見と陰謀説寄り意見の変化(人数)

陰謀説寄りに変化 34人

意見変化なし 21人

政府見解寄りに変化 0人

事後

政府見解 中間 陰謀説 合計

事前

政府見解	13	7	25	45
中間	0	2	2	4
陰謀説	0	0	6	6
合計	13	9	33	55

結果③ Text Mining Studio による分析

本調査において得られた記述データから Text Mining Studio 3.1を用いて分析を行う。

9.11テロにおける犯人は誰か？という問いに対し、視聴前(事前)においては「ウサマ・ビン・ラディン」という単語が最も多く出現しており、次点では「アルカイダ」であった。しかし、視聴後(事後)ではアルカイダに関連した単語数が減少する一方で、「アメリカ」「アメリカ政府」という単語が多く現れている(Table 2参照)。

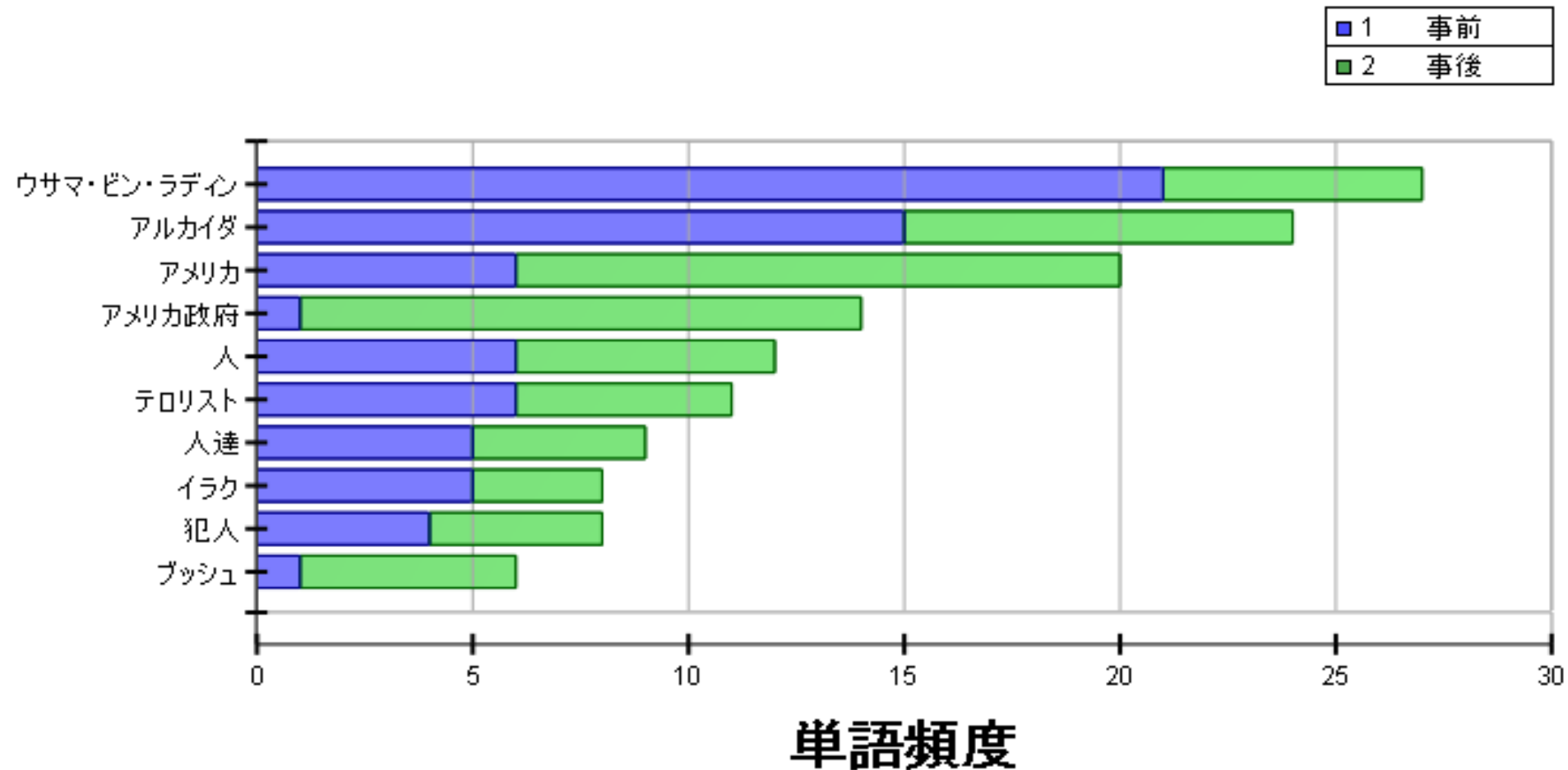
事前事後の出現単語においては、「アルカイダ」と「アメリカ」に関連する単語の変化が大きい。

Table 2

犯人は誰か？という問いに対する被験者の単語数の変化

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
ウサマ・ビン・ラディン	21	6	-15	27
アルカイダ	15	9	-6	24
アメリカ	6	14	8	20
アメリカ政府	1	13	12	14
わからない	3	9	6	12
人	6	6	0	12
テロリスト	6	5	-1	11
人達	5	4	-1	9
イラク	5	3	-2	8
犯人	4	4	0	8
ブッシュ	1	5	4	6

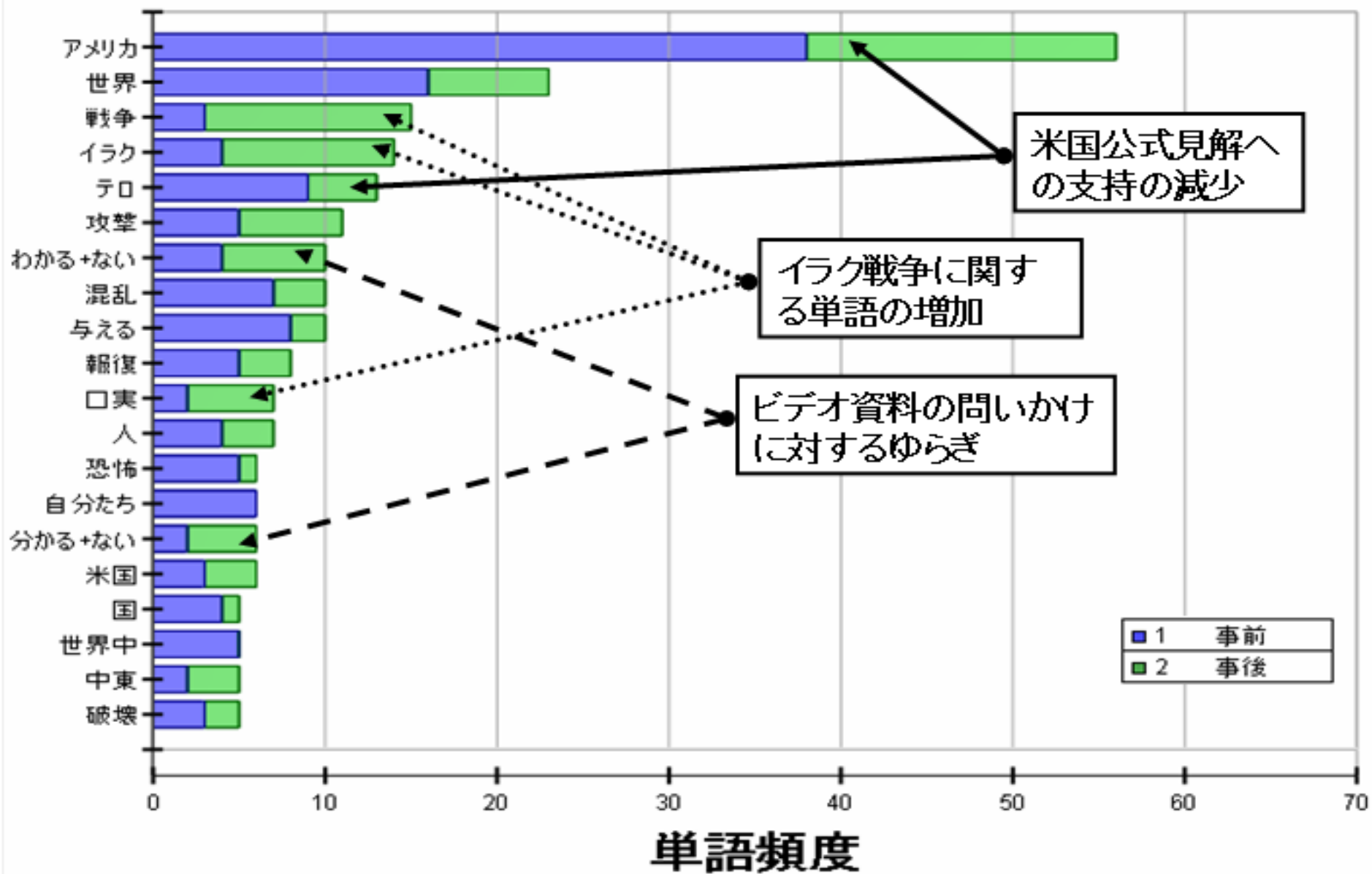
Fig.1 Table 2のデータをもとにした図



事前事後の出現単語においては、「アルカイダ」と「アメリカ」に関連する単語の変化が大きい。

単語	1(事前)	2(事後)	合計
混乱	8	0	8
破壊	9	0	9
自分	13	3	16
テロリスト	12	2	14
戦争	5	17	22
世界	21	8	29
アルカイダ	18	3	21
アメリカ政府	0	16	16
アメリカ	52	32	84
ウサマ・ビン・ラディン	23	0	23

Fig.2 犯人の目的についての問いに対する単語数の変化



ことばネットワークの作成

問3から得られた感想文において、2回以上出現する単語の共起(名詞-形容詞・形容動詞)から、属性(各コード)との結びつきによることばネットワークを作成した。なお、クラスタ数は13と設定している。

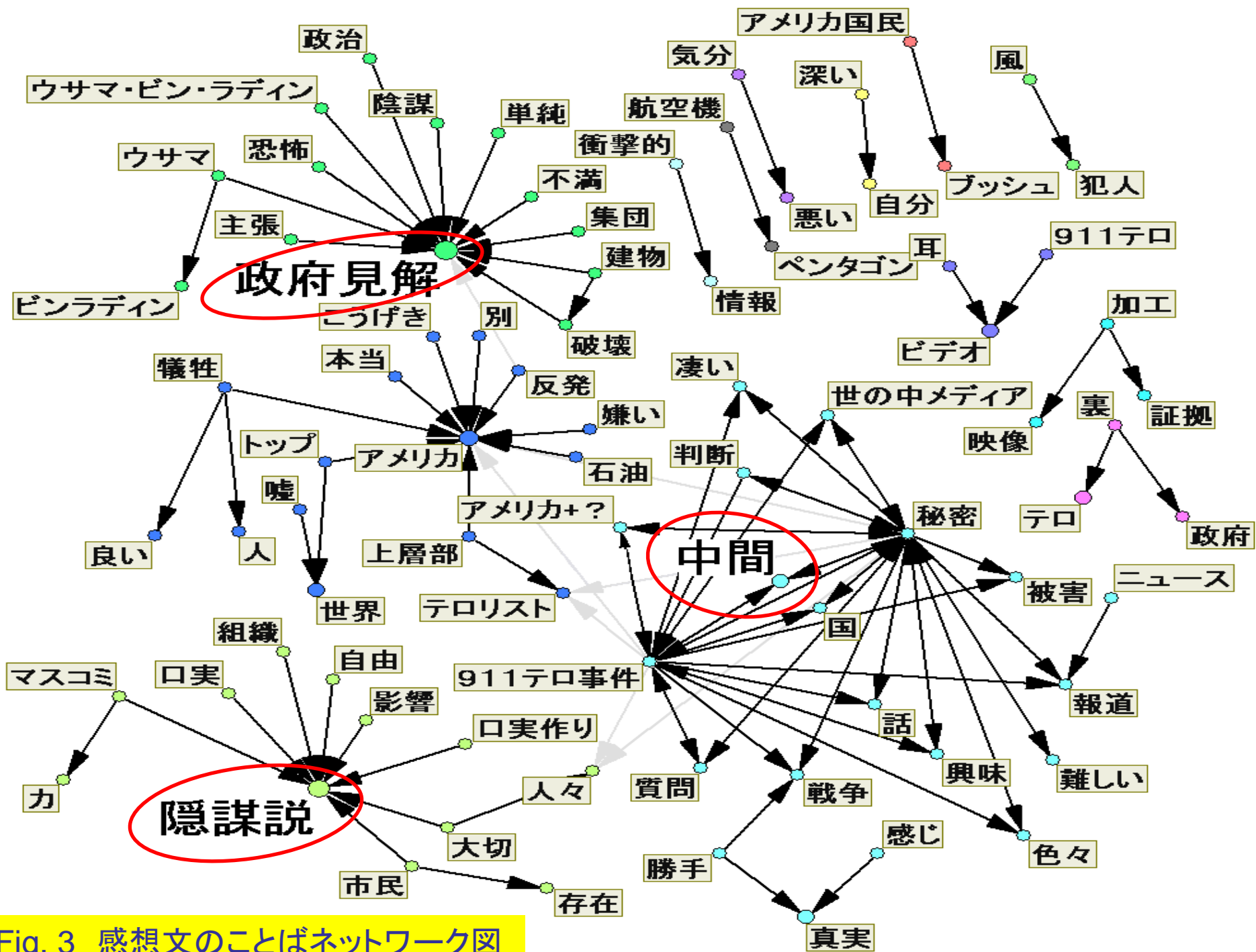


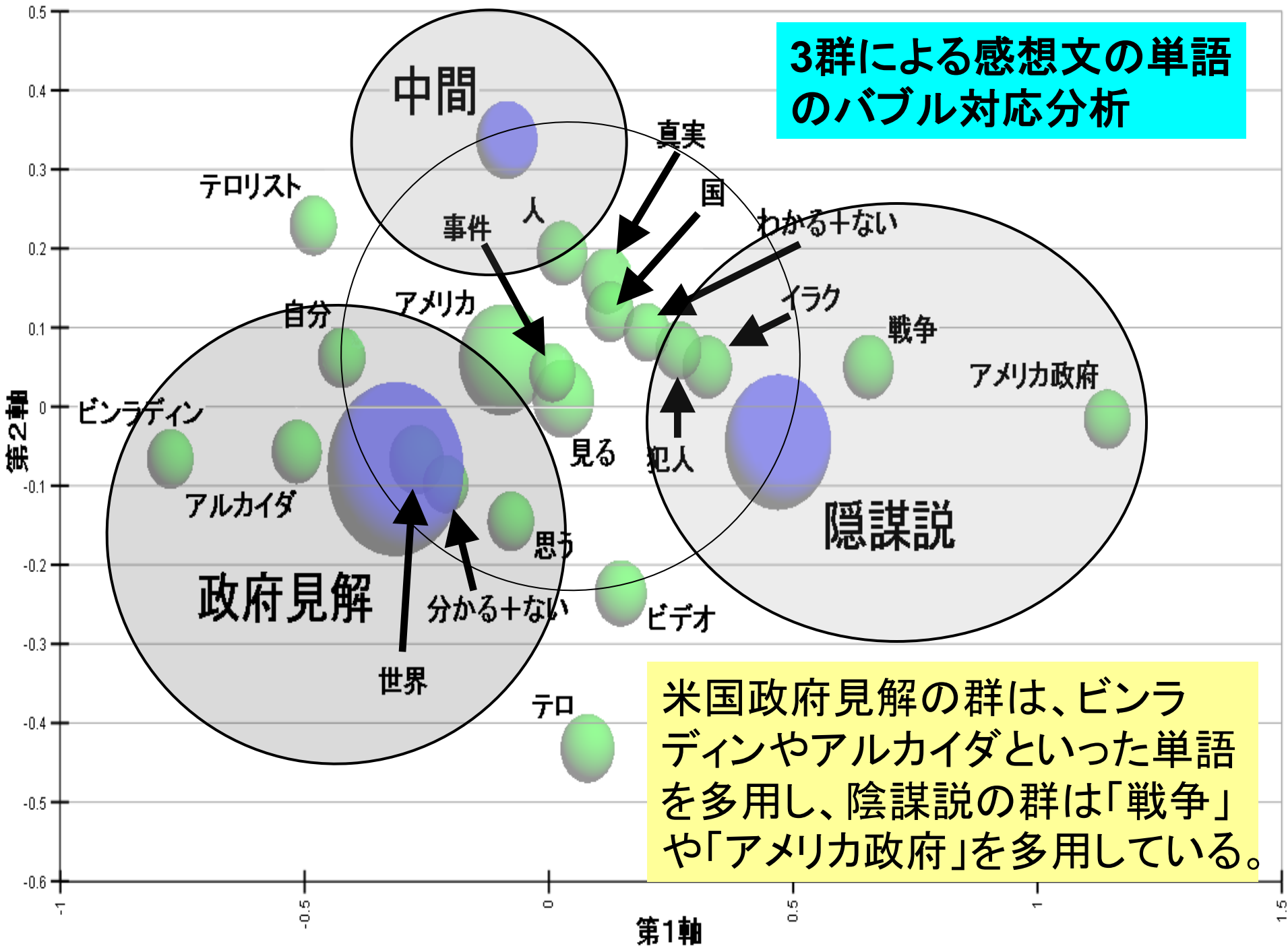
Fig. 3 感想文のことばネットワーク図

描き出されたことばネットワーク図 (Fig.3) より、政府見解の群では、それ自身と「ウサマ・ビン・ラディン」とのつながりが表れている。

隠謀説とする群においては、「口実」や「口実作り」と属性(コード)のつながりが表れるとともに、「マスコミ」-「力」とのつながりも表れていることがわかる。

どちらでもない中間とする群においては、「秘密」-「判断」や「911テロ事件」-「判断」& 「質問」とつながりが表れていることから、隠謀説をめぐるビデオ資料の問いかけに確信が得られていないといえる。

3群による感想文の単語のバブル対応分析



米国政府見解の群は、ビンラディンやアルカイダといった単語を多用し、陰謀説の群は「戦争」や「アメリカ政府」を多用している。

考察①

何が意見変容に影響したか？

- ビデオの効果 vs 平和心理学授業という場

ビデオ視聴後、アメリカ政府が関与するとする「陰謀説」が増加したことは、ビデオの影響力が大きかったことを示している。説得力のある映像であったといえる。

- 先行オーガナイザー効果？

- ※偽薬（プラシーボ）効果

薬の治験の時の二重盲検法を使った研究

セントジョンズワート（抗うつハーブ）81%に効果

偽薬 26%に効果

- 教師の期待の効果？

- 教師の期待への応答の効果？

考察②

平和教育の教材としての陰謀説（謀略説）

- きくちゆみ らの積極的な肯定的紹介
- 南雲和夫 2009 陰謀説に対する批判的検討 日本
の科学者
- Chomsky(社会評論家)の否定的見解
- Galtung(平和学者)の段階論的見解
 - 1 米国政府は知らなかった
 - 2 計画を知っていたが何もしなかった。
 - 3 計画に一部関与した(証拠隠滅を含む)
 - 4 全面的に関与した。(自作自演)
- あいまいな情報に対する批判: 米国政府見解、陰謀説それぞれに曖昧性がある。例: ペンタゴンミサイ²²
ル説では、この飛行機はドニエロフが飛行したという問題

考察③

量的分析とテキストの分析の比較

態度変容が見られた被験者のビデオについての感想文を分析すると、犯人は誰かという回答に必ずしも自信を持っているわけではなかった。

今後の課題として、回答に対する確信の度合いも測定する必要があるだろう。